

# 令和4年度美祢市総合計画審議会 議事録

日時：令和4年11月11日（金）10：00～12：00

会場：美祢市民会館2階大会議室

	役職	団体名	氏名	出欠
1	会長	山口大学	田中 和広	
2	副会長	美祢市議会	竹岡 昌治	
3	副会長	美祢市男女共同参画審議会	小林 法子	
4		公募委員	磯部 浄子	
5		公募委員	井町 恵子	欠席
6		成進高等学校	野原 政典	欠席
7		山口県宇部県民局	田中 純	
8		美祢市私立幼稚園連盟	青木 彩美	
9		美祢青年会議所	飯田 将光	
10		美祢市内郵便局	加藤 美智子	欠席
11		山口県農業協同組合美祢統括本部	河野 一成	
12		カルスト森林組合	高須 修三	
13		美祢郡医師会	竹尾 善文	欠席
14		美祢市商工会	内藤 正太	
15		山口銀行美祢支店	竹中 健二	
16		山口新聞山口支社	石田 晋作	
17		美祢市医師会	札幌 博義	欠席
18		美祢市小中学校PTA連合会	松田 龍信	欠席
19		美祢市文化協会	松原 良子	欠席
20		美祢市観光協会	山口 美津子	
21		美祢市社会福祉協議会	山田 悦子	

## 1 開会

～資料の確認～

## 2 会長あいさつ

## 3 議事

(1) 第二次美祢市総合計画基本計画の進捗状況について

(2) 第2期美祢市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について

事務局：資料1～3、参考資料について説明

○会長 総合計画の基本計画の進捗状況を中心に説明をいただき、まち・ひと・しごと創生総合戦略の内容の重要部分はほとんどリンクしているので併せて説明をいただいた。うまくいっているものもあれば、なかなか難しいものもある。やっぱりキーワードはコロナ禍といふことは現実としてあると思う。説明に対して、ご質問、ご意見があれば、いかがでしょうか。

○副会長 市の宝となる人の育成について、3点お尋ねしたいと思います。まず1点目が、今の小中連携一貫教育を目指しているという御説明でしたけれど、その前にやはり、小中学校の規模の適正配置についてお尋ねをしたいと思います。今、計画はされていると思うのですが、私の地元の美東町につきましても、子供の数がどんどん減っていきまして、特に母校である綾木小学校では、あと2年もすれば、児童数は一桁になると見込まれるわけです。子供たちが伸び伸びと自然の中で教育を受けていだろうという意見もあるかもしれませんが、やはり、教育環境としては、あまり望ましい姿ではないと思うんです。それで今、名目的には、綾木小を含めて美東町の場合は、小中一貫校とはなっておりますけれど、それを1年でも早く、実質的な小中一貫校にさせていただきたいと思うわけです。そうすることによって、教員の人材も活用できますし、子供たちにもっと豊かな教育が提供できるのではないかと考えています。次に、今、学校給食センターが設置されるということで、その中で、資料2の23ページでは、学校給食の地産地消率が、平成30年度で33%、令和3年度で28%ということで、令和6年には34%という目標は掲げてあります。そういったことで、子供たちが給食を食べるときには、やはり、生産者の顔が見える献立と申しますか、そういったものは非常に効果があるだろうと思うんです。地産地消率をもっと上げることができないのかということなんです。給食センター1か所に集めることによって地産地消率が上がることが望ましいのではないかと申すように思うわけですが、そういったことの可能性についてお尋ねしたいということです。そして、3点目が、先日、生涯学習フェスタで、私も中学生が公設塾で学んだことを発表している姿を見て、とてもいいなと思いました。やはり、学校の授業と離れた形での、自分たちのやりたいことを伸ばしていけるってことは本当に素晴らしいことだと思うわけですが、そこで、その会場に行くまでの機会の均等と申しますか、塾周辺の子供たちしか利用できない、あとは保護者で送迎していただきたいということでは、本当に行きたくても行けない子供たちもいるのではないかと申すわけなんです。何らかの形で、その会場に行くまでの機会の均等化ができれば一番いいなと思っています。

○事務局 まず1点目の小中一貫教育というところから、学校の適正配置のことと思います。今現在の教育委員会では適正配置の計画を定めて、綾木小学校は、統合するとしたら大田小学校になりますという方向性は、示されていると思います。しなければならぬという言い方ではなく、するとすればその方向性ということが示されておまして、あとは、地元の思いと申しますか、地元の合意があった上で進めていくような方向であったかと思っています。いつまでというものが、今現在決められているわけではないのですが、資料2の24ページでも記載がありますとおり、子供の数が減っていること、それから、施設を長寿命化して維持するにはある程度の金額が必要となっていることから、小中学校の適正配置についてこの現基本方針の見直しや次期方針の方向性について検討していかざるを得ないという認識は、担当課のほうも申しておるところです。それから学校給食センターに伴う地産地消率です。これはスポット的に期間を定めて調査をして、そのときの地産地消率を調査した数値になっています。どうしても購買する所、お店のほうもだんだん減ってきているところもありまして、地元産が少なくなっているところがあるのが実情というところなんです。もちろん地域内経済の循環、地元のいろんな食材を使うということのほうも、子どもが身近にいろんなものを感じ

られますので、なるべくその率を伸ばすということは思っておるところですが、いろいろ実情があるというところではあります。それから、公設塾の関係で、会場へ行く機会の均等といいますか、会場と離れたところの地域の子供たちのことですが、令和3年度に取組を始めて、美東とか秋芳など遠いところの子どもたちがそういったことに触れることが少ないということから、令和4年度から公設塾の先生が学校側いく出張 mineto とか、ここに書いてある合宿、毎日は無理にしても、キャンプのときだけ来てもらうような形で、この公設塾で取り組んでいるチャレンジするような取組を、子供たちに触れさせたいということを考えているところではあります。交通手段というのは、なかなか即座に対応は現実的ではないので、そういう形で多くの子供たちにこの取組に触れていただきたいというところで対応しているところではあります。

- 副会長 今の小中学校の適正配置について、地元の合意が先だというお考えは分かるんですけど、やはり、方針が示された後じゃないとなかなか進まないと思うんです。地元の皆さんはやっぱり学校が消えるっていうことは非常に寂しいですね。子供が1人になっても、学校は残してほしいという意見だろうと思うんです。では、誰が主体なのかということではあります。その場合、やっぱり子供が主体だろうと思いますので、行政である程度イニシアチブをとっていただいて、そして、地元を示していただくということのほうが効果的かなっていうふうに、思っています。
- 会長 確かに、少子高齢化で、子供たちどんどん減ってきますけども、大人から見るとやっぱり自分の母校がなくなるのは寂しいです。それは私も分教場で育って、全校生徒10人の生活をしていましたけど、やっぱり友達が少ない。それから、野球やるにも9人そろわない。サッカーやるにも11人そろわない。子供たちの立場になって考えたときは、委員の言われたようなことを考えてあげないといけない。私も廃校になって寂しいですけど、でもやっぱり子供たちのことを考えた施策をぜひ検討していただけないのかなと思います。
- 委員 さっき綾木小学校がなくなるっていう心配っていう意見が出ましたが、先になくなった赤郷地区は、いろいろな事業を進めているとの説明がありましたけれども、学校がなくなっただけで、何か魂が抜けたような、結構寂しいっていう御意見を言われる方がいらっしゃるので、小学校がなくなって、子どもと地区の兼ね合いとかそういうことも合わせていろいろなことを進めていってほしいと思います。それからもう1点ですけど、美祢駅周辺のことの説明がありましたけど、去年夕方のニュースで、ランタン祭り放送されているのが、闇夜にまみれて、少し寂しい映像だなと思い、日中の行事はいろいろ人が集まっていますが、美祢駅周辺のことでワークショップなどをされて、周辺の整備計画の意見を求めるようなこともされていたように思うんですが、どういう位置づけをされているのか、市役所は今建てかわって、きれいになると思いますが、美祢駅周辺のまちづくりはどう進められていますか。
- 会長 最初の視点は、非常に重要な視点だと思います。やっぱり、小学校に行って子供たちの声が聞こえることは地域にとって大きなことだろうと。そこを行政とちゃんと議論されるというのかなと。美祢駅の周辺の再開発についての御意見ですが事務局のほうから、何かお考えがありましたら。
- 事務局 美祢駅周辺の整備は、まちづくりを進めるということで、美祢駅周辺を含めたところは都市拠点、美東総合支所や秋芳総合支所のところを、それぞれの地域拠点ということで、計画的にいろいろなものを集積して、核となるようなところをつくっていくということで、進めているところではあります。まちづくりといいますと、資料2の44ページところが、それらの回答になりまして、美東総合支所のほうでも、令和3年度に総合支所の周辺のまちづくりを進めるような形でお話をしていますし、美祢駅周辺につきましては、今後、駅を中心としたまちづくりというところで、立地適正化の計画の策定等も含めて、話し合いを現在進めているところではあります。
- 会長 今の点にちょっと関係するかもわかんないんですけども、美祢市の中心地ってどこな

んですか。前にテレビの番組で美祢には中心地がありませんって誰か地元の人が言ってるのを見たんですけど。観光の中心地も私よく見えないんですよ。美祢市の中心地ってどこなのかなというか、核となる部分っていうのはどこなんでしょうか。というかどこを目指されているのか。図書館を今回新たに検討されてるということで、徳山駅前図書館できましたよね、あそこはあれを中心に活性化したんです。だから、そういう、まちのつくり方も、あるのかなと思います。山口県は分散都市構造なんで、どこが中心かよく分からないです。似たようなことが同じ市の中でも起こっていて、三つの拠点があるっていうのはそれでいいかと思うんですけど、やっぱり美祢市として、何か核となるような施設なり、何かそういうまちづくりっていうのも大事なかなとちょっと感じました。観光の核の拠点となる場所が実はなくて、まずどこに行けば、いろんな情報が入るかっていうのがなかなか分かりにくいような。だから、やっぱり何かそういうものを意識したまちづくりというか、行政の対応というのが必要なとちょっと感じました。

○会長 この中に道の駅のことが書いてありますけど、先日、道の駅みとうにいったんですけど、ほとんど誰もおられなくて、『何人ぐらい来られますか』って聞いたら、『多いときで四、五十人ですかね』とか言われて、『なぜですか』って聞いたら、『小郡萩道路のインターが南のほうにできちゃったんで、人が通らなくなった』っておっしゃっていました。もうちょっと北につくってくればよかったと言われていました。そういう意味では道の駅もなかなか伸びないと、当然コロナの影響もあるんでしょうけど、道の駅おふくはよくできてると私は個人的には思うんですけど、ただ道の駅おふくを利用する方と、道の駅みとうを利用される方の客層は違うと思うんです。そういう意味では、少し戦略的に、道の駅も一つの核になるのかなというふうに思いますので、ぜひそこを考えていただけるといいのかなと思いました。

○会長 あと、もう1か所、実は昨日ふらふらと、秋吉を歩いていまして、観光客の声が耳に入ったんですけど、秋芳洞の前の商店街、シャッター街というか、あそこで気持ち悪いねっていう話を聞いたんです。東京とか都会から来られた人なんですかね。何か不気味ねとか、要するにずっとシャッター街があって、何件かしかお店が開いていないという状況に対して、観光客はそんなイメージを持っておられるようにちょっと感じました。それも一つの空き家対策だろうと思いますし、いろんな事情があることを私も存じ上げてはいますが、何か抜本的にあの辺を何とかできないかなというふうなことも、ちょっと感じます。

○事務局 なかなか個人の所有物であるというところから、行政がどこまでできるかっていう実情があることで、店舗を新たにつくられた方もいらっしゃるんですけど、シャッター街になっているのが実情です。今言われるような抜本的な何かいい取組があればいいんですけども、今は、このような状況です。

○会長 いやあそこにシャッター街があるということは別に、しょうがない話です。ただそれがネガティブな印象を観光客に与えるってのは、あまりよろしくないかなとちょっと感じました。もっと何かポジティブに、シャッター街でもいいんですけど、あそこにペインティングするとかですね。何かそういうネガティブにならないような対応が必要なのかなという気は、いたしました。

○委員 昨年のこの審議会の中で、ジオパークの活動について、職員の体制はどうなのかということ質問したと思います。そのときに、課長と教育委員会の事務局長が兼務となってるけど、もっと体制をよくしたらみたいなこと言ったら、回答には適正な職員配置を行うこととありますとありますが、実際今年になってみると、文化財保護課長とジオパーク推進課長が兼務になっていました。その勤務場所も、秋吉公民館とカルスターということで、離れています。何か体制がちょっと悪くなったのかなということで、ちょっとショックを受けましたので、今後、職員体制について、世界を目指すのであれば、充実した体制をとっていただければという要望です。それともう1点、最近放棄地、所有者の分からない農地とか、土地がありますが、そこが雑草とか、木が生い茂って環境が悪くなったり、道に出て通学路として危なくなったりという状況がいろんなところで見られます。いろいろ相談を受けるんですが、なか

なか所有者が分からない、登記簿等とってみるけど、そこにいっちゃらないとか、そういう場合が多くなっています。行政の方に聞くと、なかなか個人情報で教えていただけない。その中で、相談される方が直接、いろんなことを対応されるのには、無理が生じてきますので、行政として、何か相談というか、つなげてあげるっていうか、そういう体制をつくっていただけないかなっていうところが要望です。環境がだんだん悪くなってくるので、そういう点も検討していただけたらという要望です。

- 事務局 はい、1点目の職員体制につきましては、担当部署に申し伝えます。2点目の所有者の分からない土地っていうのは、確かに耕作放棄地の数値も上がっておりますし、空き家や空き店舗等というところの数も増えている問題は、それぞれの部署が承知しているところで。具体として、今の雑草が生い茂っている農地をどのように対応していけるかというのは、民地にどれほど行政が手を出せるかというのは、今御回答できる内容を持っておりませんが、いずれにしても本当に困っている方がいっちゃるといのは、御意見のとおり分かりますので、解決策がお答えできるかどうかは別にして、それぞれの部署に今回の御意見を共有し、今後の施策とか、取組で対応できることは対応させていただくということで御了承いただければと思います。
- 委員 意見というかお尋ねです。観光客数が減るのコロナのせいではないかと思っている一方で、これはというのが、資料1の5ページ的美祢市に愛着を持つ小中学生の割合です。これは、対象者によっても大きく左右されるのでしょけれど、過去、平成30年から見るとがくっと減っているなという印象です。コロナで伸びやかな環境で、ふるさとのよさを再認識するっていうふうな傾向にあるのかなと思ったりちょっとそうじゃなかったのも、この数のとりの問題もあると思うんですけども、こういうふうに振れた何か原因というのが分かればと。先ほどから出てる小・中学校がどうしても人数減って統合されるというところがリンクしてるのかどうかということもちょっと気になりましたので、お尋ねします。もう1点、資料2の42ページで、合併まで1市2町では取扱いが、一般廃棄物は異なっていたんだけど、令和3年度から統一したという認識でよろしいですか。それによって結果的にごみ収集回数が減っているということですか。これはどうしても収集回数を増やすのはなかなか難しいと思うんですけども、こういうところはごみの減量では市民の協力があって初めて軌道に乗るものだろうと思いますので、ぜひ、そういうところの現状をしっかりと考えて、リサイクルにつながってるかということも、いろんな形で周知いただければいいなと感想ですけども思いました。
- 事務局 まず、本市に愛着を持つ小中学生の割合につきましては、毎年あります全国学力学習状況調査の中の設問事項で集計していくものになりますので、学年が変わるたびに、対象者は変わっているという状況です。なぜかという原因は、明確にお答えすることができませんが、愛着を持つ学習ということで、ジオパーク学習などを各小学校等でやりまして、地域に愛着を持てる子どもの育成の取組はしているというところなんです。なかなか結果として数値にあらわれないというところは、今後、引き続きの検討があるかもしれませんが、現状はそういう状況です。それから42ページの廃棄物処理の統一化というのは、これまで合併時もしくは合併すぐに統一できてなかったと。ごみの出し方とか、回数が地区によって違うところがありましたので、それを同じような形に統一させていただいて、どうしても多く収集があったところは、回数が減っているというのが実情ですが、均衡を図るということで、御理解をいただき、対応しているものです。
- 委員 やはり愛着を持つ割合が減った原因分析は難しいとは思ったんですけども、ぜひ先ほどおっしゃられたような取組を進めていかれて、美祢に愛着を持つことが、その後外に出ずに、美祢にずっと定着してもらえると、人口の増加につながると思いますので、ぜひそこに注力して、事業を進めていただければと思います。
- 会長 愛着を持たない理由が、地元の良さが分かってないのか、何か原因があるような気がして、都会に憧れるっていうのもあるんでしょけれど。ぜひその辺の要因分析も含めて、御検討いた

できれば、1人でも多くの子供たちが地元で誇りをもって、地元で働こうというか、そういう気持ちになれるような環境づくりが、必要かなと思います。

- 会長 私国定公園の秋吉台の保全と活用に関する検討委員会があつて報告書が最近出ました。非常によくできた報告書だろうと思います。アクションプランがたくさん出てるんですけど、みんな文化財保護課がやるって書いてあるんですよ。こんなのできるわけないよね、これだけの人数でっていう話をしたんです。結局やっぱりやらなきゃいけないことがどんどん増えていくばかりで、人はそんなに増やせないっていう中で、これを乗り切るにはもうDXしかないと思うんです。デジタル化をして、それを総合的に最適化するようなDXを目指さないと、多分もたない。我々の大学もそうなんですけど、そうしないとこっちもさっちなかなくなるということで、デジタル化だけじゃなく、デジタルがスタートで、それから最終的にDXにいくまでに、どんどん新しいリソースをつくる。時間であつたり、人であつたり、お金であつたり、それを、新しく出てきたこと若しくはやるべきことに回していくというのが、DXの本来の趣旨なんだというふうには私は理解してまして。ぜひ、そういう形で例えば、何か利用するときの申請書を全部紙ベースでやるのはやめようとかですね、何かいろいろあるような気がして。それを一つの課に集中するように、その検討委員会では感じましたんで、できれば、それをさらに進めていただけると、新しい人的リソースも出てくると思いますので、DXを活用されるというのが、よろしいのかなとも思ひまして、今どういう状況にあるんでしょうか。DXに関する検討状況というのは、1番最初にやらなきゃいけないのは行政だと思うんですけど、
- 事務局 昨年、DX推進計画っていうものを定めまして、市民向けのサービスと行政サービスのデジタル化の2方面があるかと思ひます。まず行政サービスのデジタル化で言えば、住民票等の窓口事務などの事務手続で、それぞれの手続ごとにお名前等を書かなければならない手続をデジタル化して、一度書けば、その関連する申請の手続が簡略されるようなものの構築であつたり、キャッシュレスの導入であつたり、また本年度GISを導入して、地図情報等の整備をしているというところは聞いております。住民サービス等については、今後というふうなことになるかと思ひます。
- 会長 引き続きぜひよろしくお願ひしたい。美祢市全体の最適化が、最終的な目標なんで、パート、パートでのそういう効率化なり、そんなことはスタートだということで、全体として、美祢市として、今後この部分の余力を回そうとか、そういった全体のシステムづくりが大事かなとぜひ引き続きよろしくお願ひしたいと思ひます。
- 副会長 4点ありますけど、ちょっと2点だけ先にお聞ひしたいと思ひます。まず資料2の20ページ、6次産業化の問題、それから、36ページが後期高齢者医療事業の問題なんです。6次産業化は、ほとんどがミネコレしか書いてないんですね。ミネコレオンリーで行くとしたならば、過去、数千万円に使ってきて、数千万円っていうのはトータルからすれば億のお金を使ってるんですけど、現状どれぐらいの認定数があるのか。最近低迷してるって書いてあります。実際に売っているところがあるのか、道の駅おふくっておっしゃったんですけど、道の駅おふくに行ってもなかったんですけど、そうした取組を、今後、県と連携して、マーケティングするって書いてあるんです。具体的に、誰がどのようにやるのか。はい、お願ひをしたいと思ひます。その辺の基本的な考え方をお願ひします。それから後期高齢者医療は、そのまま維持して書いてあるんです。非常にこれだけを見ると、余り問題がないようなんですけど、山口県の中で、後期高齢者医療広域連合会の決算書を見ると、美祢市が5か年間トップなんです。医療費が1人当たり110万円。これの原因が多重診療をされてるのか。それと、逆に検診率は低いんですよ。美祢市は、阿武町だったかな、検診率非常に高いところが1人当たりの医療費も低いと。こういう検診をすることによって、医療費が連動しているということは理解できるんですけど、美祢市の場合、検診率も低い。そして、不名誉ですが、5か年間、県下トップ110万円、1人当たり医療費を使っているという状態なんです。こういう状態の中で、後期高齢者医療事業は、そのまま維持していくと書いてある意味がちょっとよく分からないんです。そ

の辺の今後の取組についてお願いをしたいと。まず2つの質問に対して、御回答をお願いします。

○事務局 まずミネコレの認定の件数の状況を先に申し上げますと、平成30年度が75件ありましたところ、令和3年度が58件の認定というところになっていまして、認定件数が減少している状況です。今年度は、認定審査会をやっています、幾らか増えるような話もありますが、近年はずっと減っているという状況です。6次産業は、ミネコレを中心としたやり方、中心といたしますか、なかなかそれ以外といたしますと、大きなお話を伺っているところはいんですが、共通認識としては6次産業を推進していかなければならないという、大きな方向性としては、考えておりますが、なかなかその上手いブランディングないし推進体制とか、加工・販売、または、新たな商品の開発という面も含めて、大きな対策が今見つからないというところで、苦慮しているところです。かといってこの歩みをとめるということもないんですが、今現在、新たな計画の策定にも入っています、アンケート調査等も実施しているというの伺っていますので、6次産業の推進を引き続き、努めてまいりたいというところです。それから、後期高齢者の関係につきましては、医療費はトップというふうに伺っています。検診率は、最下位ではないですけど、中ほどぐらい、普通ぐらいの受診率というふうには伺っているんですけど、この維持というのは、後期高齢者事業の給付の予算事業でありますので、法令で定められた給付事業を維持していくという意味での趣旨なので、この部分に関しては、そうしたものとして捉えていただきたいものです。今の医療費が上がらないような取組、例えば検診の受診率を上げるとか、健康づくりを努めていくとか、ジェネリック薬品であったり、医療費の適正化に向けた取組というのは、国保や後期のほうで、これから努めていかなければならないのではないかと考えてます。

○副会長 今話の中にもありましたように、第三次六次産業化計画ですか、基本計画をつくられるというふうにお聞きしておりますが、この中で、確実に実行できる計画策定が必要であるところ書いてある。ということは、一次、二次は、実行できない計画をつくったのかなあと、逆に思ったりするんです。だから、一次、二次はどのように取り組まれてきた。いわゆる、ミネコレオンリーではなく、私はやっぱり、ほかのことも取り組んでいくべきではないだろうか。例えば6次産業開発をするとしても、農産物を何かやるとしても、キッチンを公の施設としてつくってそれをシェアしていくとかですね。保健所の許可がないところで作ったものは売ることができないし、またそれを売っても、お客様の情報をフィードバックして改良していくということも不可能。そういうものに全く取り組まれてないということ指摘したいと思うんです。それからもう1点は、検診率を上げることも確かに、中ほどよりちょっと下というふうに思っていますが、それだけじゃなくして、道の駅おふくだとか、それから岩永や赤郷にも温泉もあります。そうした、健康づくりについての何らかの具体的な施策がとれないもんであるのかなと、こういうふうに思うわけですがいかがでしょうか。

○事務局 1点目の6次産業化の関係の計画等々につきましては、今、新しい計画がどのような方向で進んでいくのかということまでは承知しておりませんので、今の御意見は担当課に伝えるということで、対応させていただければと思います。検診の受診率若しくは健康づくりというのに関しましては、健康増進課、市民課含めて、医療費適正化等、または、市民の健康づくりに向けた取組を順次進めておりますので、その中で、今の温泉を活用した形、もしくはそれ以外のことも含めて、充実に向けた取組を、今後の施策の中で対応できるものをアイデアとして情報提供していきたいと思えます。

○副会長 それでは次に、資料2の48ページで、ふるさと納税のことが書いてあります。これもかなり落ち込んでいる。昨日、東京出張から帰るときに、モノレール乗ったが、モノレールの出入口に、ふるさと納税なら長門市って書いてあります。どっかで見たような市町村名だなと思ったら、ちゃんと地図が書いてあって、長門市がやりました。当然、日本一であった宮崎県都城市ですか、これはもう1車両皆貼ってありましたけど、出入口に数か所、長門市のそうしたふるさと納税について、ふぐ刺しとトラフグの刺身それからマグロも当然、あそこ養

殖してますから、そうした刺身類に、イカ、そういった海産物、残念ながら、美祢市はないんですが、それに観光地として、元ノ隅神社ですか、そういう写真までちゃんとあってポスターが、たくさん貼ってありました。美祢って見たことがないんですよ。そうしたものが。だから、どういうふうに工夫されているのか、もっともっと工夫の仕方があるんだろうなど。数日前だったですか、ある会で、ふるさと納税は、全体的にコスト高になるからやめるべきだというような、御意見に対して私は反論したんですが、やはりふるさと納税は、物も、金も、みんな東京集中してると。そういう都会の人たちがせっかくふるさと納税という形で、フィードバックしてくれるならば、その知恵を出して、もっともっと経済活動につなげていく必要があるんじゃないかと。そうすることによって、地方では雇用が生まれ、それから増収につながるんじゃないか。だから決して、全国的にコスト高になるとは思ってませんという話で、確かに、税からすると、2,000円以外は控除ということですからあるかもしれませんが、それ以上の知恵を出せば、効果が出てくるんじゃないかという気がします。それについての対策と。それから49ページに、財政推計が書いてあります。これも見せていただきまして、人口減少の予測は、ちゃんと変えてるんです。にもかかわらず、税収は変えていないんですね。それも年々変えるところおっしゃるんですが、私はやっぱり、市民の皆さんも分かりやすく、人口が減るとどういう状態になるのか。歳入もどういう状態になるのかというのは、お示しをいただきたいなと思います。最後になるんですが、3ページに、観光のことも書いてあります。ちょっと若干、事前は申し上げましたが、3ページの観光事業特別会計も、公営企業会計に移行しますと書いてあります。もう実際に移行して2年経ってるんです。そうしますと、これは当初の計画だからとおっしゃるならば、私は、事後評価、事中評価、こういうものをもっと具体的に、今後どうやっていくのか、どういう課題が起きたかとか、その対策をどうとるんだとか、いわゆる課題と対策をもう少し具体的に、事後評価、あるいは事中評価に、大きく取上げていただきたい。確かに我々は、いろんな報告を聞くことは大切だと思うんです、思うんですが、やはり、それをもっともっと詳しくどう考えていらっしゃるのかというのをやっぱり書いていただきたいなとこのように思います。

○事務局 まずふるさと納税の関係です。令和2年度に急激に減少しまして、その当時、返礼品の数78品、それから協力事業者が13事業者まで、減ったところで、令和4年度の当初までに、返礼品数を141品、協力事業者25事業者まで、まずは返礼品を増やしていかないと、皆様に選んでいただける状況にないというところです。市内の事業所、農林、商工等関係部局に協力いただき、地域経済に、地元還元できるから、そういったことで御協力をいただいて、返礼品を増やして、サイトの充実、返礼品の充実というところを考えると取り組んでいるところです。あとは長門市のようなPRに関しましては、ふるさと納税のルールがありまして、PR経費等を含めた事務経費が寄附額の50%以内というルールがあります。寄附額がぐっと下がっておりますので、50%を超えるわけにはいきませんから、それらを含めながら、経費の範囲内で、今後できることを、順次取り組んでいき、商品を充実しながら、PRというものを組合せて、知っていただく機会を増やしていくというふうに対応していきたいと思います。それから、先に最後にいただいた御意見、進捗管理ということで、皆様方からいただいた御意見というのは、なるべく具体的な施策や事業等に反映するないし、参考として、よりよいものとしていきたいというところで、こういうふうな形をとっております。今の御意見のように、課題を分析したり、対応できるところの状況や今後の方針等が極力示したほうがということは、重々理解できますので、様式の記載の方法ややり方は、次年度に向けて、また検討させていただきまして、皆様方が審議しやすいような形の資料づくりに努めて、活発な御意見をいただけるように対応したいと思います。

○事務局 49ページ的美祢市財政推計につきまして、令和3年の12月に、策定しているところで、これを毎年ローリングするというので、本年も9月にも財政計画として改定を行っておるところです。御質問内容の地方税について、人口が減少するというので地方税がそこまで落ちてないという状況が見受けられるということですが、計画上固定資産税の設備投資等が若干伸びるのではないかとこのことを踏まえて、計上しております。いずれにしまして

も毎年きちんとローリングをかけていきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

○会長 委員言われたように、やっぱり広報活動っていうのは非常に大事だと。人が来れば、いろんなものを用意して待っているけど、来ないとどうしようもならない。そのためにはまずは知ってもらうことが大事かなという意味での広報活動は、ぜひ、やったらいいかと。やられると思いますけど、山口県人ってどちらかという、何かこう、頭を下げて来てくれよっていうのは苦手なタイプで、向こうが来るものだという、何かそんな意識を持っている人も結構多くて。そういう意味で、私なんか今いろいろノベルティグッズを考えて、Tシャツも作れば、そのTシャツを着て山手線なんか歩いてくれればこれはもうただで宣伝してもらえようなもんだと。もう1,000円かけるような、1,500円をかけようがもう安いもんだというぐらいの発想が大事じゃないかなというふうに思ったりします。食べ物のお土産は食べちゃえばもう終わりですけど、やっぱりそういう形として残るものを、どんどんアピールしていかれたらどうかなと最近思うようになってます。その宣伝が下手なんですけど、ぜひそれを考えていただければいいのか。

○委員 いろいろ、皆様方の御意見をお伺いしながら、私としては幾つか御意見と御提案も含めて。まず観光協会として観光地である秋吉台、あと先ほどお話があった秋芳洞の商店街なんですけれども、地元の方とお話をさせていただくと、やっぱり開きたいけれども、なかなか1人で開けられない状況があったりですとか、御事情がなかなかたくさんおありです。ただその中で、廃墟の撤去、安全を担保するですとか、あと景観の問題などもありまして、秋吉台に行かれる途中の廃墟の撤去は、できるだけ速やかにしていただくことで、観光地の価値が非常に上がっていくと感じてます。次に、観光地として、商店街の住宅がかなり老朽化していて、雨漏りが大変ですとか、個人で負担しつつも、御高齢でいらっしゃるの、なかなか住宅を自費で、修繕などが難しいことで、どうしてもお店を開けられないという事情もある方もあるので、このあたりは観光地として、市として保全をするという担保として補助金の準備などもお願いできればと思います。宿泊施設についてですが、いろいろ動いていただいているとお聞きしているものの、やはり、星空がとてもすばらしい秋吉台の星を見ていただこうと思っても、どうしても宿泊施設がないということで、御案内ができないですとか、個人的には非常に残念に感じている部分が多いので、その辺りは宿泊施設、ロイヤルの跡には、ぜひ誘致をしていただきたいと強く切望してます。また外国人の観光客の方のお話が出ましたが、こちらにも記載があるようにWi-Fiの準備は、最低限必要だと感じてまして、プラス電子マネーを使っただけの施設の誘致ですとか、あとグーグルマップなどで、しっかりとお店が御案内できるような形をしっかりと改善していただけたらと、間違ったところに行かれないという、最低限のモバイルの徹底はできればと思っております。続いて、梨、栗、ごぼうの産品がたくさんあるんですけれども、どうしても人手不足であるということで、この夏、JALの社員に声をかけ、20名私の友人が、梨の収穫に手伝いにボランティアで入ってくれました。しかしながら1年でそういう活動が終わると。地元の方もレクチャーをして次に続かないっていう非常に悲しいことにつながるの、このあたりはやはり組合さんですとか、農林課若しくはJAだとかで、しっかりと仕組みづくりができるっていうことが非常に重要ではないかと感じてます。企業も、最近では、地域創生ですとか、とても興味を持っている企業が多くありますので、そういった企業に打ち込みをかけていって、美祢市のそういった人手不足を補うような、そういう仕組みづくりがしっかりと整えば、企業として手が挙がると感じてます。ふるさと納税ですけど141件とすごく増えて大変御苦労があったと思います。直結する市の財源ですので、ただどうしても商品でとまっているところがあって、グランピングの宿泊の補助もあるんですけど、体験型の商品なども、もっと、たくさん入れていただくと、美祢の魅力がどんどん外に発出できると感じます。美祢市は私、お伺いして、本当にすばらしい自然が豊かで魅力ある観光地だけれども、さっきお子さんの地元愛のお話がありましたが、SDGsの教育で私も講師として入らせていただいたんですけど、子供さんたちの自己発信力がどうしても低くて、自分たちの言葉とか考えとか意見とかをもっともっと外に、自信を持って発信できるようにするためには、まずは、親御さんたちとか、家族の方たちが、

この美祢がとてもすごいとこだよって、言っていたくなるようになっていくっていうのが一番大事かなと感じます。今回、観光協会のほうで、観光ガイドブックを、私の外からの目線で作らせていただいたんですけども、それを美祢市の方に見ていただくと、こういうものが美祢市の魅力って発信できるのって、逆に聞かれることがあります。やっぱり、美祢市の方が思っている魅力と、観光客とか、外の方が感じる美祢の魅力っていうのは多分違うものが光っているっていうところもたくさんあると思うので、そういったものを活用していただきながら、美祢市の魅力を、地元の方にまずは意識改革をしていただくような、MYTを使った美祢の魅力を発信するとか、そういったようなことも、裾野での活動として必要ではないかと思います。そうすると家族の中で美祢の話題ができて、今度このお店に行ってみようよみたいな会話がもし生まれれば、美祢の中を地元の方で活性化していただけるというサイクルができるのではというふうに感じています。

- 会長 はい。どうもありがとうございました。この観光に関する部分を中心に非常に重要な指摘をいただいたように思いますけれども、事務局、何かありますか。
- 事務局 観光分野に関しての御意見というのはまた担当部署を含めてですね、今のような視点を捉えながら、取組を進めていくこととし、いただいた御意見は共有していきたいと思えます。宿泊施設に関して、ロイヤルの跡地も、いろいろお話いただくんですけど、最終的な合意には至っていないのが実情でして、ただ昨年のご意見をいただいたとおり宿泊施設があるかないのではやはり違います。グランピング施設が増えたことは非常にありがたいことですが、秋吉台上にあることもまた一つの大きな魅力でありますので、そういったものも含めて、進めなければいいなと考えておるところです。農政の関係の仕組みづくりというのは、梨組合自体も個別に募集されて、その取組を継続的にやられておるんですけども、そういった形で、美祢市と関わってくださる方が多くいるというのは、市の強みでありまた財産になっていくことと思っておりますので、いただいた御意見を情報共有しながら、新たな取組を展開できることはやっていきたいなと考えています。
- 会長 先ほどありましたように、自分たちが自分たちの何がいいところを知らないというか美祢市の人、これが魅力なのっていうこと自体なんか、いやそういうこともあるかなと。もう美祢市の人はずっと見ているから、別に驚かないっていうかいつも日常なんで。この前学生を連れてここに来たときに、もっと秋吉台、美祢をアピールすべきだ、誰も知らないじゃないですか言うんですよ。僕らは知っていると思っていたのに、学生は知らない。知らないから美祢市の魅力をもっとアピールすべきだというのが、彼らの結論でした。私びっくりしました。知られてないこともあるんですよ。逆に言うと、地元の人はずっと見ているから、別にそんなに熱く語ることもないというだからやっぱりそういういろんな意見を取り込みながら、どういうふうにすべきかっていうのを考えていくといいのかなと思います。さっきのガイドブックも非常に私は重要なコンテンツだと思いますので、ぜひ、そういうのを活かされたらいいんじゃないかなと思います。
- 委員 私は、美東町なんですけど健康増進課がつくられているウォーキングマップというのがありまして、それに今年初めて参加したんですが、ジオガイドについてもらって、別府地区とか歩いたんです。また、この間は厚保の方のほうの案内で回ってきたんですが、本当に美東に住んでるとこちらの旧美祢とか、厚保とか、全然分からないところばかりだなと思って。そういう健康づくりとリンクしたマップもちゃんとあるので、そういうものも美祢市の人たちにもっと広げてほしいなとつくづく思いました。親子で歩くとか、そういう機会をイベントごとでも企画したらいいかなと思いました。
- 会長 非常に貴重な御意見だと思います。よろしいでしょうか。時間もたってまいりましたので、特に御意見がないようでしたら、この件に関する議論はこれで終わりたいと思います。

### (3) 令和3年度地方創生推進交付金活用事業の実績について

事務局：資料4について説明

- 会長 これは美祢市が主体となってやられるんですけど、他の機関、例えば、県立大学であったり、山口大学だったり、他機関と一緒に何かこう、この事業を進められるというようなことはないんですか。
- 事務局 健幸百寿プロジェクトで言えば、県立大学と進めておりますし、他市町であれば、下関市、長門市との3市の取組や、県央連携の形があります。官民連携で取り組むようなことが、より評価も高いので、そういった取組を推進している事業にはなっています。
- 会長 多分、評価も高いんだろうというふうに思います。つい最近山口市と産学公金の地域連携プラットフォームというのができました。来週は、宇部市で産学公金の地域連携プラットフォームができます。そこで、それぞれの立場でそれぞれの団体組織が、地域課題を解決していこうという取組を、これから進めるようになっていきます。もしこういう形でいろんなところと連携しながら、いろんな課題を多方面から見られるっていうのも非常に重要な取組ではないかなと思いますので、そういうこともぜひ、将来的には視野に入れていただいて、県立大学や、山口大学だとか、あと観光協会とか、産業界で商工会だとかそういう方々も一緒に入れながら、地域課題を一緒に考えていこうという、こういうような場になるんだろうと思うんですけどそこで課題を出して、出した課題を必ずやる。そういったことで、地域の課題解決を解決するというやり方も、今少し進んでますので、ぜひそれを視野に入れていただければと思います。
- 会長 よろしいですかね。それでは、一応報告を受けしたということで、次の、ちょっと議題に入りたいと思います。

#### (4) 過疎地域持続的発展計画の取組状況について

事務局：資料5について説明

#### (5) その他

事務局から本日の会議内容の庁内での共有、令和5年度から総合計画後期基本計画の策定に向けたアンケート調査などの事前準備等に取り組んでいく旨を報告

## 4 閉会